

江北の四季

令和 2 年
5月9日
第 6 号

○この連休でほとんどの田んぼは水田となり、小さな苗が頼りなきげに風に揺れています。四月初めからの「田起し、しろかき、田植え」と、季節に追われるようにしてきた田んぼ仕事が一段落し、ほっとするときです。気がつくと季節は夏になっています。稲の育つ水田を見ると、毎年ですが、夏だなあと感じます。今年は五月五日の日もありませんが、未だにこの感覚が体に残っています。



オダマキ

子供の頃、機械の無い時代ですが、田んぼや周辺の水路は遊び場でした。田植を手伝いに行っているはずが、いつの間にか産卵が上がってきている「がんぞ(ニゴロ

ブナの小さいもの)」とりに夢中になっていました。用水路や田んぼを遡上してくるがんぞを手つかみで取るのが面白く、最後は田んぼを足跡で荒らして怒られる始末でした。



オダマキ

この時期は家の近くの用水路に「うえ」や「もんどり」(どちらも魚を捕る道具)を仕掛けて、フナを捕っていました。時々ナマズが入っていてその晩のご馳走になっていました。捕れたフナは塩きりにしておいて梅雨明けに父親がフナ寿司につけていました。この時期になるとなぜか懐かしく思い出します。



オダマキ

近年はご飯につけ込むだけにしたフナを買って自分でつけていましたが、今年はそのフナが捕れないということで入手先が無く困っています。琵琶湖畔に住んでいるのに自前のフナ寿司が食べられないのは寂しい限りです。(まあ、晩酌の最高のつまみがなくなるからです)



梅花空木 八重
昨年花展の時、笹原先生より一枝いただき挿し木したもの



梅花空木 一重

○空木は下側の垂れている枝が先に咲き出し、上へ伸び上がっている枝はその後に咲き出します。斑入り空木の垂れている枝を前回生けたので、明日は立っている枝を一種生けにしようと思っていました。梅空木の垂れている枝が咲き出しました。こゝ次々と咲き出しては生けるのが間に合いません。晩春から初夏の期間が昔より短くなってきているように感じます。また、昨年のように暑い夏が長いのでしょうか。



黄色の木蓮

○フナ寿司では「江北の四季」が分からないくなりましたが、花があります。

四月下旬から咲いていた牡丹は花王といわれるとおり、風格があり、まるで着物を着た美人が座っているかのように見えません。その牡丹も満開を過ぎたものから花首をカットして取り除いています。実をつけさせると牡丹が弱るからですが、咲き衰えた牡丹は花王と呼ばれるものにはふさわし

くありませんし、こぼれ落ちた花びらは見苦しいだけです。ただ今は遅く咲き出した黄色の牡丹が残っているだけです。座っていた美人が立ち上がり、八頭身の姿を見せてくれるのは……芍薬(しゃくやく)が、すらりと伸びた茎の先端に美しい花を咲かせ、たおやかな香りを放っています。



一番咲きの芍薬



「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花」

よく女性を花にたとえることがあります。これほどのたとえをされる女性はものすごい美人なのでしょうね。

そして百合は五月末から六月にかけて咲き出します。座っている美人が立ち上がって歩き出すかのような咲き順です。この女性には姿かたちのみならず、立ち居振舞いもきつと美しいのでしょうね。

○我が家の芍薬の第一号は葉の細いものです。一週間前に咲きました。他の芍薬は二、三日前から咲き出したところです。畑沢先生に倣って明日には生花に生きたいものです。

○芍薬に負けずと、薔薇とクレマチスの競演も始まりました。

この時期、可児市の花博跡のバラ公園は素晴らしいと思います
が(やっているのかな?)、他府県へ行くのははばかられます。
もちろん比較もできませんが、この庭もそれなりに心を癒やし
てくれます。

写真ですが、どこかのローズガーデンへ行ったつもりで、楽し
んでくだされば幸いです。



コウフンレン(香粉連)



ムタビリス



ドクタールッペル



ツダンホンジン



フェアリーブルー



スイートセレナード



ホワイトウィングス



ブラッシュブルーソール



ピーチブロッサム



レミチャン



ヌルマハール



マリアカラス



アルティッシモ